

最近の活動の状況

◇電話相談◇

子どもの虐待防止ホットライン 2015年4月～6月末日 電話相談結果報告

①総受信件数 369件

<内訳>

1) 相談者性別・年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	不明	合計
女性	1	30	70	99	71	14	43	328
男性	0	2	23	1	2	0	7	35

性別不明 6件

2) 利用回数

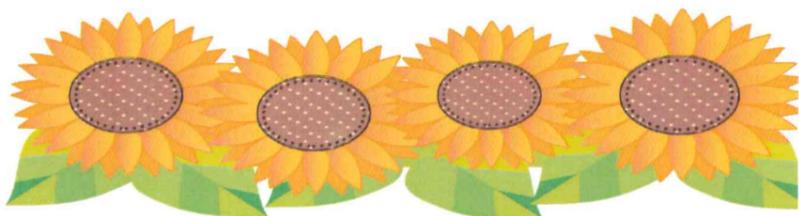
初回	継続	不明
153	214	2

3) 相談時間(平均約36分)

～9	～19	～29	～39	～49	～59	60分以上
24	50	57	58	41	34	105

4) 被虐待経験の有無

あり	なし	不明
209	22	138



② 内容別件数

虐待(含む危惧)	53
18歳以上の虐待	147
育児不安	76
マスコミ・問合せ	0
その他の相談	86
無言・ノイズ	6
妊娠・出産	1

虐待の型

身体的	心理的	ネグレクト	性的	不明
45	121	18	16	0



～編集後記～

2015年、CAPNAは新体制でスタートしました。20年間、CAPNAは子どもの虐待防止を中心に据えて様々な活動を行ってきました。この間、子どもを巡る状況は、貧困、いじめなどに象徴されるように、さほど改善していません。しかし、我々はこの難問に民間NPOとして継続してチャレンジしていきます。まず、私たちの足元から。それが今回の号、私たちの活動を掲載しました。

(小久保裕美・井上直美)

発行 NPO法人 CAPNA

事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1-4-4-404

CAPNA ニュースレター

「理事長就任あいさつ・萬屋育子」

CAPNAが発足したのは1995年、ちょうど20年前です。私は児童相談所の児童福祉司でした。児童虐待防止法ができる前で全般的に児童相談所の動きは悪く、県内でも尊い子どもの命を失いました。私は児童相談所の職員ということで会合に来るとずいぶん非難され、追及されました。状況は変わりました。



当時に比べると、児童相談所は児童相談所の権限を駆使し子どもの安全確保を優先して動くようになりました。市町村にも子ども虐待の担当課ができましたし、児童相談所がCAPNAをはじめ様々な民間機関と協働することも多くなりました。と思います。それでも、児童相談所への虐待相談は増える一方です。また、虐待による子どもの死亡も続いています。私は児童相談所はじめ関係機関が少しでも油断をすると子どもが虐待で死亡してしまうのではないかと危惧しています。児童相談所や関係機関につながりがないところで親の虐待で子どもが命を落としています。5月には県内で中学生、乳児、4歳児が母親の自殺の巻き添えになって死亡しました。

子ども虐待をなくするための課題はまだたくさんあると思います。CAPNAに集うみなさんはいろいろな分野で活動されています。さまざまな活動がつながり、広がって、子どもの安心、安全、安定した生活ができるよう努力したいと思います。そして虐待をしてしまう親への関わりも重要です。子どもたち、親への支援は一人で、一機関ではできません。支援者へも支援が必要と思っています。子ども虐待防止に関わっている支援者、児童相談所や児童養護施設の職員への支援なども考えたいと思います。

相談所職員をやめて5年目、日頃、あまり悩まず、適当に即決するのですが、理事長にと言われ躊躇しました。初代の祖父江さんはじめ、子どもの虐待防止、権利擁護に並々ならぬ熱意とご見識をお持ちの方々がCAPNAの理事長をされています。熱意も見識もいまいちの私でいいのだろうか、という思いは今でも捨てきれません。皆さんの力をお借りしたいです、私の力不足を補ってください。

子ども虐待防止、予防のための新たな課題、引き続きの課題、CAPNAにはまだ役割があります。皆様の力を頼りに努力します。どうぞ経済的支援も含めてお力添えをお願いします。

CAPNA は、なごや子どもサポート連絡会議および愛知県内の

要保護児童対策協議会の代表者会議に専門委員として参加しています!

理事 井上直美

CAPNA は、2006年より、なごや子どもサポート連絡会議および愛知県要保護児童対策協議会の代表者会議に専門委員として参加しています。そこで得られる各地の情報やCAPNAとして発信する内容については、参加者が集まるサポート研究会で話し合ってきました。本ニュースレターで、名古屋市東区と港区の代表者会議に参加した報告をさせていただきます。

「第1回なごや子どもサポート東区連絡会議に参加して」

5月13日、東区役所にて今年度第1回目の「なごや子どもサポート連絡会議」が開催され、CAPNAからは私が出席いたしました。

東区役所民生子ども課の主催で、区の主任児童委員、幼稚園・保育園・小中学校関係者、東保健所、弁護士会、名古屋市中央児童相談所、そしてCAPNAと、児童福祉関係者が一堂に会して、児童福祉に関する諸問題についての情報交換および連絡調整を行いました。

まず、東区役所からは昨年度（26年度）の東区役所における児童虐待相談状況について統計のまとめが示され、どのように対応したかの説明がなされました。

次に、児童虐待防止月間における東区の取り組みについての説明や、東区子育て支援ネットワーク活動グループ「ニコニコ子育てネット」作成の「ニコニコ子育てガイドひがし」が配布され、東区における子育て支援の取り組みについて説明が詳しくなされました。この冊子には、まず巻頭に「ひがし子育てマップ」と題して、子育てサロン・サークル、保育施設や幼稚園、学童保育所、コミュニティセンター、医療機関等がカラー刷りでわかりやすく地図にまとめられており、なおかつ中に進んでいくとそれらの機関の説明が詳しく載っているという、たいへんわかりやすいものになっています。東区在住の子育て中のお母さんのための「いざ困ったときの1冊」「安心して子育てができるための1冊」になっています。

区役所への児童虐待相談が増加する中、児童虐待を未然に防ぐための「子育て支援」に心血を注ぐ東区の取り組みには、虐待防止NPO団体として大きな感銘を覚えました。CAPNAの電話相談にも、育児に不安やストレスを抱える母親からの相談が多くあるので、行政の直接支援がこれだけきちんと整備されていれば、利用者の方に安心して紹介できると思いました。

また、弁護士会からは「いじめ防止授業」というプログラムで、小中学校向けに出前授業を行っているのでご利用くださいというお言葉がありました。このように地域が一体となって子どもの健全な成長を見守っていくことの大切さをあらためて感じた一日でした。

理事・相談員：小出砂恵子



おとなに伝えたいこと!



森恵美、通称モリメグ ダンスが好きな17歳!

私は、緑児童館の中高生タイムGTやピンポンハウスでやっていた中高生の居場所「Teens' Café」に参加しています。わたしにとってTeens' Caféは何でも言えて信頼できる仲間がいるし、男女や年齢に関係なくいろいろな人が交える場所であり、同じ悩みを抱えている人たちが集う場所で、相談事があつたらすぐに頼れる大切な存在です。また、いろいろなことを経験できる場でもあります。最近で言うと昨年の9月に名古屋国際会議場で開催されたコースフォーラムの実行委員として参加したことは、とてもいい経験になりました。他団体のコースたちと虐待について考え、フォーラムを企画しました。その中で、私は劇の主演をやったのですが、虐待から自立していく主人公を演じ、参加者のみなさんからたくさん拍手をもらった時は、とてもうれしかったです。この経験を通して、私は、このように子どもたちが声をあげる場があり、こどもの声に耳を傾けてくれる大人がいることが重要であり、必要だと伝えたいです。

※森さんは、昨年CAPNAが事務局を務めたイスパカンのコースフォーラムで、実行委員として活躍してくれました。

この記事は、子どもNPOのニュースレター（8号）に書かれたものを、許可を得て紹介させていただきました。

寄付者一覧 (H27.4~6月)

梶企画 名城ローターアクトクラブ 谷口紀美江 水野タズ子 横井幸子
井階弥可 鈴木加代子 向山富雄 北原和子 吉田衣里 永田雅枝 後藤宗理
吉田由美 石川知子 日比野元子 原末子 近藤夏子 北村清美 小久保裕美
北保護区保護司会 萬屋育子 小森孝一 名古屋SORA ソンタクラブ 平野利依
服部恵子 塚崎真澄 池谷涼子 公益財団法人パブリックソース財団
匿名希望（7名） （順不同 敬称略）

◇ご報告◇

この度CAPNAの活動にご理解・ご協力いただいております“梶企画”様のご寄付によりCAPNAで使用している名刺サイズの啓発カードを3万枚作成しました。大変ありがとうございます。広く皆さんに知っていただけるよう、活用していきたいと思っています。

児童養護施設内の暴力・虐待をなくすために ～安全委員会方式実践セミナー・基本版～

6月25日(木)・26日(金) ウィルあいち

この事業は“公益信託 愛・地球博開催地域社会貢献活動基金(モリコロ基金)”の助成金を受けて実施するものです。

安全委員会方式を独自に考案された九州大学の臨床心理学者田嶋誠一教授を中心にセミナーを企画し、全国の児童養護施設・児童相談所に参加を呼び掛けた所、締切日を待つことなく定員60名に達するほどの反応がありました。北海道から沖縄まで全国各地からの参加者は、一人のキャンセルもなく当日を迎えました。

盛りだくさんの内容に疲れることもなく、25日の夜の懇親会ではすでに実践している施設や、これから取り入れたいと考えている施設等々多くの方からコメントを頂き情報交換、交流をすることができました。

安全委員会とは

児童養護施設には、保護者のいない児童、被虐待児など家庭環境上養護を必要とする児童が児童相談所を通して入所しています。全国に約600カ所、約3万人の子ども達が親や家族から離れて生活しています。しかし、児童養護施設の中には①職員から子どもへの暴力(職員暴力)、②子どもから職員への暴力(対職員暴力)、③子ども間暴力(児童間暴力)3種類があり、いずれの暴力も子どもたちの安心・安全を脅かすものです。

3種類の暴力は相互に関連しており、職員暴力だけを問題にすれば、かえって子ども間暴力(児童間暴力)がひどくなったり、職員の指導が通らず荒れた状況となる可能性もあります。顕在化している暴力と潜在化している暴力、すべての暴力への対応が必要です。

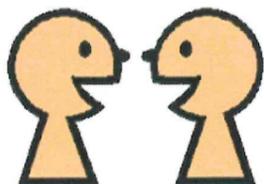
児童養護施設で、子どもたちが「安心・安全な生活」が送れていないということは大きな問題です。本来最も手厚く保護され養育されるべき子どもたちが、またさらに深刻な暴力にさらされながら日々の生活を送らなければならないことにはやりきれない思いを持たざるを得ません。施設内での暴力の問題の解決なしには心のケアはおろか、虐待からの保護さえも終わったことにはならないのです。

個別対応を応援する仕組みをつくり、3種類の暴力を早期発見し、子どもも大人も暴力を振るわないで言葉で表現できるように施設をあげて実践するのが安全委員会方式です。

来年2月にはこの基本版に続き、充実版を開催します。

田崎淳子

参加者の声



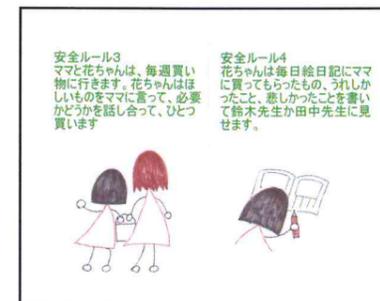
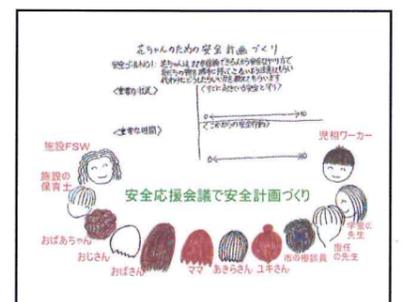
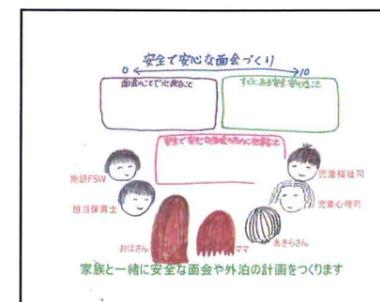
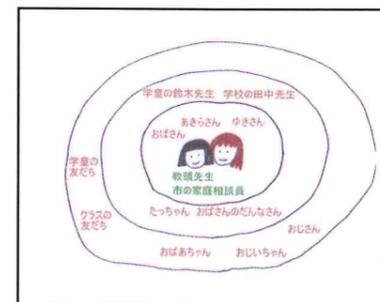
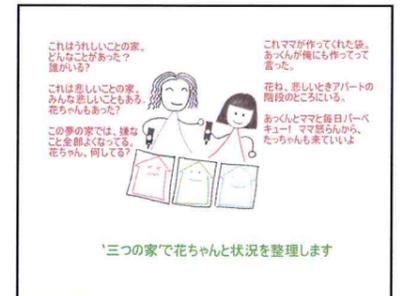
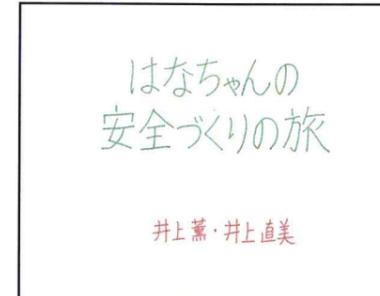
- ・今後の業務に活かしていきたい。自施設の現状を見直すいい機会になった。
- ・子どもからの暴力について、あきらめつつありましたが勇気が出ました
- ・安全委員会の有効さが分かった
- ・処遇力について、どのように仕組みを考え、話し合いをするのかを全体で考えていきたい。

「なごやこどもサポート港区代表者会議に参加して」

7月2日梅雨の晴れ間、港区役所に約25名が集まり、名古屋市のH27年度児童虐待防止対策と近年の児童虐待相談対応の状況、港保健所の母子保健状況、港区の家庭児童相談状況について、丁寧な報告がされました。その際、虐待種別においてH25年度より半数近くを占めている心理的虐待の中身について、質問がありました。心理的虐待には、言葉による脅し、無視、兄弟間での差別的扱いに加え、子どもの目の前で行われるDV(警察通告が多い)や身体的虐待を受けた子どものきょうだいも含まれるそうです。

その後、医師会港区支部、歯科医師会港区支部、愛知県弁護士会、港保護区保護司会、主任児童委員連絡会、私立幼稚園港支部、CAPNA、人権擁護委員協議会、子ども応援委員会からの各専門委員が、活動報告を行いました。CAPNAからは、事務局が用意して下さったニューズレターや研修チラシなどに基づいて活動を紹介し、「花ちゃんの安全づくりの旅～安全パートナーリングを使う子ども虐待対応」という紙芝居を紹介させていただきました。

19歳以下のお母さんの出産と4人目以上の出生が名古屋市で一番多い港区では、「みなと子育て支援ネット」に沢山の機関や団体が参加して、積極的な子育て支援が展開されていることに感動しました。
理事：井上直美
(紙芝居を一部抜粋しました。ご覧ください)



メール相談だより

変化が激しいインターネットの世界は、すでに小学生から携帯やスマートフォン、パソコンなどの利用が普通のことになり、メールというコミュニケーションツールも広く利用されるようになってきました。相手の都合を気にすることなく、時間や場所の制限を受けることもなく、送りたいと思った時に送ることができる便利さや手軽さで、特に若い世代ではメールが日常生活の中に浸透しています。

そのような社会変化の中でメール相談も広がってきました。メール相談の受信件数は年々増加してきて2014年度は1268件を数えました。全体の60%近くが虐待相談、20%が虐待も絡む育児相談です。利用者の多くは女性で87%、男性は13%となっています。

虐待相談の中でも目に付くのは、中学生や高校生といった10代の若者からの相談です。幼い頃から理不尽な扱いを受けてきたが、これは虐待ではないのか、いまの辛い状況から逃れたいと、現に親から受けている虐待の相談が34%ほどもあります。電話相談では拾いきれない部分をメール相談がカバーしているのではないかと思う側面もあります。

また、孤立した状況で協力者もなく辛い育児をしている、若い母親からのメールも多いです。

最近のメール相談は、受信件数が予想外に増えてきて、6月1日から20日までの20日間に返信を含めて53件のメールの受信がありました。これを9人のスタッフがフル活動で取り組んで、ひたすら自宅で返信を書き続けている状態です。

これほど支持されていることは、児童虐待防止に特化して活動している私たちにとって、困っている人や傷ついている人のお役に立てていると、ある意味嬉しいことではありますが、反面辛いことでもあります。何故ならば、メールは一字一句がいつまでも残ってしまうという特性があるので、返信を書く際には、何度も何度も適切な言葉を探し、選び、入れ替えてようやく

く仕上げるという作業（相談掲示板でのシェアリング）に結構な時間を費やしているからです。CAPNAの電話相談員でもある相談スタッフのほとんどは、仕事を持ちながらボランティアとして関わっているので、これ以上受信件数が増えると対応しきれなくなるのではないかという不安を抱えています。

スタッフの数に見合った適切なメールの受信件数を願うという本末転倒な気持ちを抱えながら夜ごとパソコンを開いています（祈）。

※CAPNA 電話相談員のみなさんへ；メール相談員随時募集中です！連絡は事務局か、お知り合いのメール相談員にお声かけを！（メール相談員一同）

◇メール相談事業◇

	受信件数
4月	121件
5月	131件
6月	156件

～ シェルター便り ～

CAPNAでは子ども虐待について、子どもだけでなく親の支援も続けている関係からDVの場合に母親と子どもが別々の場所に保護されるという事態を鑑み2006年7月より「虐待を受けている子どもと母親と一緒に緊急避難できるシェルター」を開設しました。

“暴力のない安全で安心できる場所”としてCAPNAのシェルターは「プーさんの家」と名付けられました。

今年開設9年目を迎え、たくさんの方の利用を頂きました。途中1回移転しています。ここ4年間の利用実績は、大人21名・子ども28名で延べ使用日数は415日。

1年間の平均が100日程度の稼働となっています。

利用者は、母と子・外国人の方・祖父母と母子・成人した子と母・独身女性・高齢者等様々です。シェルターには、生活必需品・お米・調味料等常備し、利用料は1家族1泊1500円です。必要に応じて、シェルタースタッフが面会・同行・託児支援等を行います。

現在は、名古屋市16区と支所・愛知県内の市町からの依頼が多くあります。利用者がシェルターを出られる時は、ただ今後の無事と幸せをお祈りして見送り、その後の足跡を追うことはありません。ただ、いつ支払って頂いても良いですよとお伝えした利用料が、何年も後に振り込まれてくるのをみると（しかも、何回も分割で少しずつ）嬉しさを涙が出ることもあります。引きこもりだった青年が、シェルターからアルバイトに行けるのを見たときも感動しました。利用者の逞しさに触れるたび、シェルター運営基金を何とかせねば！とシェルタースタッフは奮い立っています。

理事・相談員 塚崎真澄

◇シェルター事業◇（4月～6月末）

	受付先	経路	利用者	内容	判断	支援	支援結果
4月	事務局	機関		DVケース	該当	利用せず	問合せ
4月	事務局	機関	母のみ(子は児童相談所)	DVケース	該当	利用	31日間
5月	事務局	機関	母、4才女双子	DVケース	該当	利用せず	
6月	事務局	機関			該当	利用せず	